

地域包括ケアネットワーク No.91

西大寺地区における地域包括ケアの進捗状況

西大寺医師会理事 野田 憲男

岡山市東区（西大寺と瀬戸）の人口推移については、岡山市の他の区に先駆けて平成22年をピークとして、既に人口減少社会に突入していますが、他地区に比べ高齢化率は高く、また高齢化の進行も速いという状況です。全体としては、令和6年頃が高齢者人口のピークで、その後、次第に減少すると言われます。医療の面では、当地区に大きな急性期高機能病院はありませんが、多くの高齢者施設や、色々の機能を持った3つの中小病院（緩和病床、地域包括病床、リハビリ病床等）があり、慢性期や終末期への対応には有利な地区と言えます。最近、在宅専門診療所の開設もあり、内科系の診療所の開設も2施設予定です。今後は、在宅だけでなく、施設を巻き込んでの在宅医療、介護の連携、推進が、一層望まれるようです。

現在の当地区の地域包括ケアの取り組み・進捗状況について述べます。

1) 住民を交えた地域づくり

岡山市においては、地域ケア会議、及び支え合い推進会議が毎年数多く行われ、西大寺医師会も参加しています。行政、地域包括支援センター、町内会、民生委員、医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護保険関係事業者などが参加し、地域の課題を抽出し検討がなされ、以下の取り組みが必要と考えられました。①独居高齢者の把握、支援体制づくり、②ケアマネや民生委員等と地域が連携できる環境づくり、③日常的な見守りの体制づくり、④災害時支援の充実、⑤通いの場の充実、⑥交通不便地域の移動手段の確保、⑦移動困難者への支援、⑧転倒予防につながるサービスや介護予防の充実、⑨コロナ禍でも集える仕組みづくり、⑩高齢者のネット活用の支援など。具対的な取り組みが始まっており、徐々に進捗が見られつつあります。

2) 在宅医療の推進

岡山市から託された「東区在宅医療・介護サービス提供体制モデル事業」は、主治医/副主治医による医師同士のネットワークの構築です。医師の負担軽減や持続可能な在宅医療の整備、患者やケア専門職への安心感の提供が得られると考えられます。コロナ禍のため現在延期になっていますが、落ち着き次第スタート予定です。

3) 多職種連携の継続的推進

平成24年から29年まで、岡山市6福祉区の東区として、行政の協力を得、顔の見えるネットワーク構築会議（地域在宅医療・介護連携意見交換会）、みんなで作る「在宅医療」地域会議（市民と専門職の意見交換会）が毎年複数回開催され、顔の見える関係が少しずつ進みました。現在は、地域の専門職による自主的な取り組みに移行しています。「西大寺地区在宅医療・介護勉強会」が誕生し、時々意見交換会を交えながら、現時点で16回開催しています。最近ではコロナ禍ゆえ、ハイブリッド形式等で、開催継続に努めています。

東区では在宅での看取り、癌の看取りが少ないと言われます。独居や高齢者世帯が多く、最期は自宅ではなく、施設や病院を選択されるからではと推測したりしますが、更なる在宅医療の広がりが望めます。コロナや災害等の非常時が今後増えると予測されますが、その基盤として、平時からのネットワーク作り、他職種との連携の強化が大事と考えます。